

Iki・Tomo

自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「イキトモ」

今からできる
生物多様性

Iki・Tomo パートナーズ、
「生物多様性の本箱」、
MY 行動宣言…。

SPECIAL
ISSUE
〈特別編〉

2011

2020



／ つないでいこう ／

生物多様性の10年

生物多様性 = Biodiversity

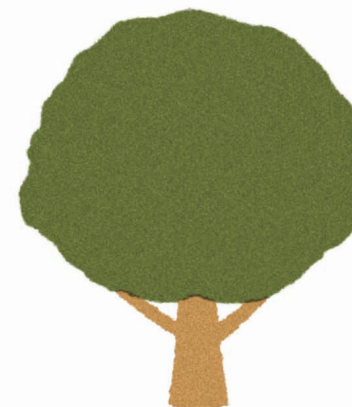
地球上の生きものは、生命が誕生して以来、40億年という長い年月の中で、さまざまな環境に適応して進化してきました。現在、地球上には3,000万種類ともいわれる生きものがあります。さまざまな生きものが、直接的・間接的にそれぞれ関わりあいながら生きていることを生物多様性といいます。私たち人類も生きもののひとつであり、他のたくさんの生きものとともに、食糧や水など、生物多様性から得られる恵みを受けて生きているのです。

しかし近年、生物多様性は急速に失われています。そこで、2011年から2020年までの10年間は、国内外の社会を構成するあらゆる主体が連携して、重点的に生物多様性の問題に取り組む「国連生物多様性の10年」とされています。

もし、生物多様性が失われてしまったら

地球上から森や小鳥、魚や昆虫などが消えてしまい、人間だけが残ったと想像してみてください。立派なビルやITシステムが残っていても人間だけでは生きていけません。では食糧や衣服、建築などの原料になる最小限の生きものがいれば済むのでしょうか。人間に都合のよい種だけにしても、うまくはいきません。例えば広葉樹はすぐに役立たないからといって全て切り倒し、建築・製紙用材になるスギやヒノキなどの針葉樹のみにしたら、森林の保水力が落ち水害につながり、水源が荒れて安全な飲み水が確保できなくなってしまいます。

生物多様性は、人間が生存するのにかかせない基盤です。なかなか気づきにくいですが、みなさんの周りにも生物多様性はあふれています。



できるアクション！
としよう。

地元でとれたものを食べ、
旬のものを味わいます。

生の自然を体験し、動植物園・水族館などを
訪ね、自然や生きものにふれます。

自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、
写真や絵、文章などで伝えます。

生きものや自然、人や文化との
「つながり」を守るため、
地域や全国の活動に参加します。

エコラベルなどが付いた環境に
優しい商品を選んで買います。

<http://www.undb.jp/team/cheering/>

今からできる 生物多様性の いろいろ。

一人ひとりで今から簡単にできることがあります。まずは生物多様性のために何ができるのか、知ることから始めてみましょう。

イベントやキャンペーンに 参加しよう。

「新宿御苑みどりフェスタ」や「グリーンウェイブ」などのイベントやキャンペーンでは生物多様性を楽しく知ることができます。

◆全国の自然体験イベントの詳細はこちらで。
自然大好きクラブ
<http://www.env.go.jp/nature/nats/>

ミーティングや セミナーで考えよう。


国連生物多様性の10年日本委員会や政府、自治体、NGO/NPO、地域の博物館や水族館などが主催するミーティングやセミナーに参加するのも手です。

<http://undb.jp/event/>

「生物多様性の本箱」で生物多様性を知ろう。

生物多様性の理解や普及啓発に役立つ書籍や映像、グッズ等を国連生物多様性の10年日本委員会では推薦ツールとして選定しています。2012年度は、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団および日本環境教育フォーラムのご協力のもと、「自然のしくみの素晴らしさや大切さを伝える」などの選定基準を満たす、子供向けの絵本、読み物、図鑑、写真集など103点を選定しました。

<http://undb.jp/recommend/>

 これらの図書は地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）や環境省の生物多様性センター（山梨県富士吉田市）で実際に手に取ってご覧いただけます。またブックフェアや読み聞かせ会等のイベントと連携して広報を行っています。

地球環境パートナーシッププラザ
<http://www.geoc.jp>

生物多様性センター
<http://www.biodic.go.jp>



わくいしろう 東京都大学環境情報学部教授。国連生物多様性の10年日本委員会委員長代理。「愛・地球博」では会場演出総合プロデューサーを務める。



日本から発信する生物多様性。

涌井史郎

(造園家・ランドスケープアーキテクト)

Q 生物多様性について、日本はどのような立場にあるのか教えてください。

A 世界的に見ても、かなり生物多様性への取り組みが進んでいますね。それは2010年10月に愛知県名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の成功があるのではないかと思います。

Q その成功とは？

A 生物多様性の保全のためには地域のさまざまな企業、自治体、市民団体などが自主的に取り組むことが重要であると認識されたことでしょうか。またそれぞれにパートナーシップを組むことも注目され、実際に実行されてもいます。

さらに開発が保護かという選択ではなく、日本が提案した第3の道「SATOYAMA INIシアティブ」に共感を持ってもらえたことですね。人が積極的に環境に関わることによって、人にとっても生物にとっても、よりよいライフスタイルを維持できるという考え方です。

Q 具体的にはどのような活動が進んでいますか？

A 日本の経済界は事実、500社もの企業がこの考えに賛同していますし、各自治体も盛んに動き始めています。そして最後は国民です。人の暮らしそのものが生物多様性の生態系サービスを支えても、ど

う実感してもらえるかですね。人は大地にしっかりと根付いていないと生きていきません。生物多様性を意識しなくても、結果として生物多様性の話なのだとして理解してもらえるかが大切なのです。

Q 涌井先生の「MY行動宣言」を教えてください。

A 個人として生物多様性にどこまで貢献する暮らしをしているかはわかりませんが、少なくとも動物語・植物語は得意ですね。つまり今、何という鳥が鳴いているのか、道端に何という花が咲いているのか、外を歩いているだけでたくさん動物や植物と会話をしています。またそれを翻訳して、みんなにも伝えていきます。

生物多様性を守るために、私たちに

MY行動宣言を


生物多様性初級者は、まずここから始めてみませんか？ 生物多様性のために、私たちができるアクションを選んで「宣言」できます。生物多様性の恵みを受け続けられるように、5つのアクションから自分ができるものをチェックして、今日から行動しましょう！

<http://undb.jp/committee/tool/action/>

著名人のみなさんのMY行動宣言をウェブサイトで見ることができます。

<http://undb.jp/committee>

「いいね！」で広めよう。 Iki・Tomo パートナース。

 生物多様性について、さらに広く知ってもらうために立ち上げられたのが「Iki・Tomo パートナース」。生物多様性に取り組んでいる個人、団体、事業者の方々をメンバーとして募集しています。Facebook ページの「いいね！」をクリックするだけでメンバーに。国連生物多様性の10年日本委員会の最新情報や活動状況が得られるほか、メンバー専用のロゴマークが使えます。

<https://www.facebook.com/UNDB-J>



生物多様性のことを多くの人に
知ってもらうために、2012年9
月に旗揚げした様々な団体のキ
ャラクターによる広報組織です。

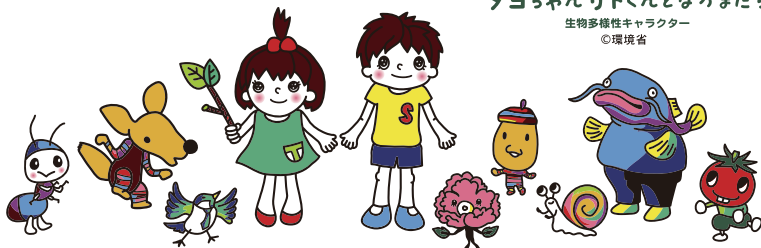


生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

タヨちゃん サトくんとなかまたち

生物多様性キャラクター
©環境省



いろいろな生き物たちと話ができる女の子タヨちゃんとその兄サトくん。この2人を中心に、さまざまな仲間たちが国連生物多様性の10年日本委員会の広報活動をお手伝いします。特に生物多様性キャラクター応援団の中心メンバーとして、委員会のイベントやセミナーに参加します。

<http://undb.jp/committee/team/chara/>



UNDB-J 認定連携事業



2010年10月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)。そこで「自然と共生する世界」の実現を目指し採択された「愛知目標」の達成に向け、国連生物多様性の10年日本委員会では多くの方々が生物多様性を守るために連携して取り組んでいる事業を認定し、積極的な広報を行っています。

<http://undb.jp/authorization/>

- 〈上〉 湿地のグリーンウェイブ (NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本)。〈中〉 第十環水辺の教室 (川塾)
〈下〉 コウノトリも住める自然と共生する地域づくり (株式会社野田自然共生ファーム)

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) 「国連生物多様性の10年」の決定を受けて、2011年9月に設立。生物多様性の
※ UNDB = United Nation on Biodiversity 主流化を目指して国内外のあらゆる主体が連携し様々な取組を進めています。